

震災5年目の[まちびらき]

気になる言葉がある。被災地から届く[まちびらき]という言葉である。復興の兆しの中、各地でこの言葉や、この言葉に関するイベントの様子が報じられている。

これは、[被災地]という段階を乗り越え、新しい[まち]へと再生していることの証であろうし、復興を加速化させるための内外への意思表示でもあるようだ。

しかしながら、再生の道を歩むその[まち]が、そこで暮らす人びとの望む[まち]として生まれ変わろうとしているのか、が高知には見えてこない。

被災前にできることを進める[事前復興]という考え方を踏まえ、私たちは大きな被害を受けた、地域を、暮らしをどのように再生するのか、その糸口を考える場としたい。



岩手県宮古市田老地区「三王団地」への移転状況 2016/1/29

【日時】 2016年 **2月20日** (土) **【入場無料】**

13:00~16:40

【場所】 高知商工会館 4階 [光の間]

◎ 事前申し込みは不要です。どなたでもご参加ください。

— タイムスケジュール —

- 13:00～13:05 (5分) 開会行事
13:05～13:35 (30分) 報告① テーマ「被災地からのメッセージ」
松本 勇毅 さん
13:35～14:15 (40分) 報告② テーマ「宮古市の復興状況」
高峯 聡一郎 さん
14:15～14:55 (40分) 報告③ テーマ「津波防災のまち田老」
山崎 正幸 さん
14:55～15:05 (10分) 休憩～設営
15:05～16:35 (90分) パネルディスカッション
○パネラー
松本 勇毅 さん、高峯 聡一郎 さん、山崎 正幸 さん
坂本 茂雄 さん(高知市下知地区減災連絡会 事務局長)
○コーディネーター(調整中)
16:35～16:40 (5分) 閉会行事
16:40 終 了



松本 勇毅(まつもと ゆうき) さん

株式会社たろう観光ホテル 代表取締役

1956年宮古市(旧田老町)生まれ。

1972年から父が旅館業をはじめ、1986年から自身も旅館経営にあたる。

明治三陸津波で1,859人の犠牲者が出るなか、わずかに36人の生き残りの1人であった曾祖父から津波の危険性を教えられ育つ。

東日本大震災時は自社ホテルで津波に遭遇するも上階へ避難し、一命をとりとめる。

同ホテルは市に提供され、震災遺構として保存することとなった。

移転新築されたホテル経営の傍ら、自身の経験を踏まえ、津波から逃げることの大切さを訴える活動をしている。



高峯 聡一郎(たかみね そういちろう) さん

宮古市都市整備部長

1976年生まれ。

富山県立富山高等学校卒業 東京農工大学農学部卒業

民間企業勤務を経て、2010年国土交通省入省。

震災時は都市局市街地整備課にて復興業務を担当し、2013年より現職。

宮古市の復興事業を統括。

東日本大震災による津波被害からの復興まちづくり検証委員会委員。



山崎 正幸(やまざき まさゆき) さん

宮古市危機管理監危機管理課 主査

1965年生まれ。

岩手県立宮古高等学校卒業

1986年旧田老町役場(合併後宮古市役所)入庁。

合併を含め、通算12年間防災を担当。震災時は農業課で畜産を担当していたが、勤務場所が田老総合事務所だったため、2011年6月20日の異動まで田老地区で災害対応を担当。以降現職となり、震災を踏まえての防災体制の見直しや防災士の養成など地域防災力の向上に努めている。

(日本防災士会岩手県支部事務局長)

